
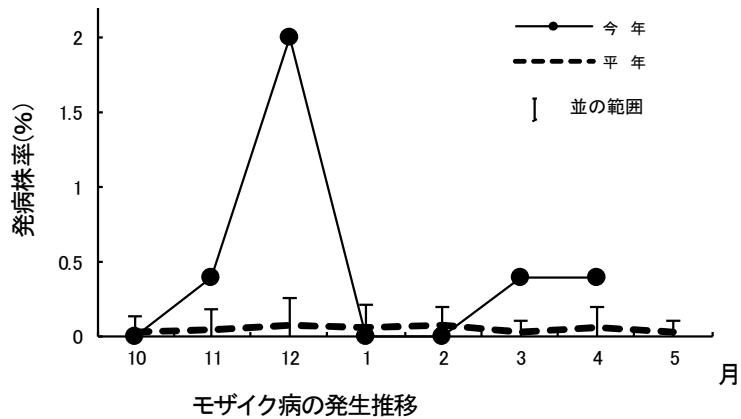



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
4月の発生量（現況）	多		
5月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫であるアブラムシ類の4月の発生量が多く、今後増加する見込みから、4月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

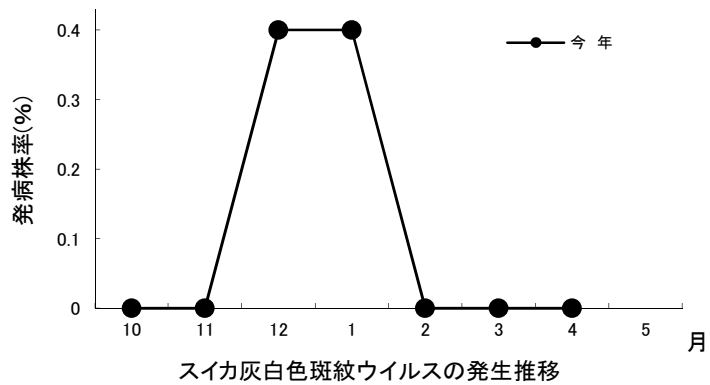


防除のポイント

- ・媒介虫アブラムシ類の侵入防止、早期発見・早期防除に努める。
- ・発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	スイカ灰白色斑紋ウイルス		
4月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
5月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生量が、4月より増加する見込みから、4月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

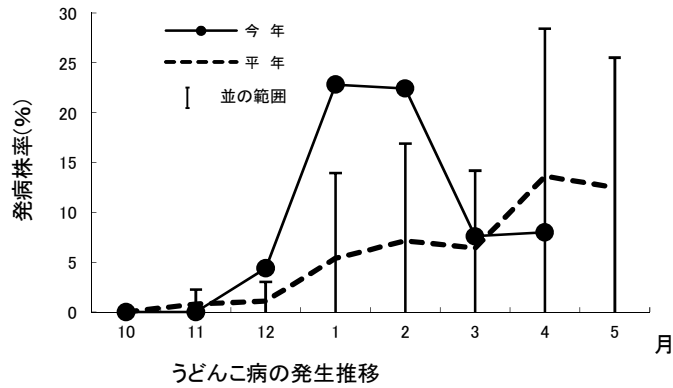


防除のポイント

- ・媒介虫であるミナミキイロアザミウマの侵入防止、早期発見・早期防除に努める。
- ・発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
4月の発生量(現況)	並		
5月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、4月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

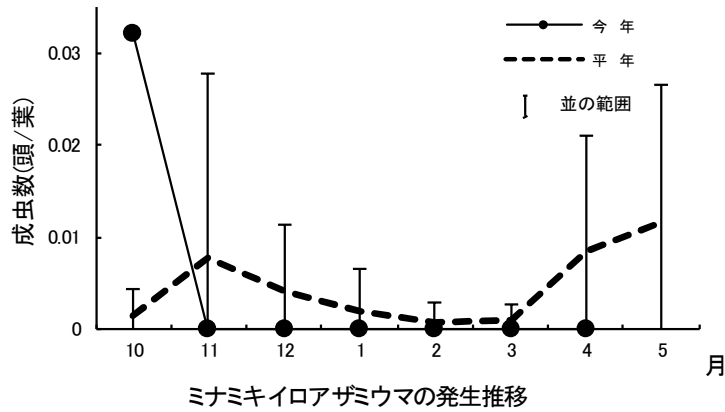


防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
4月の発生量(現況)	(発生なし)並		
5月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、4月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

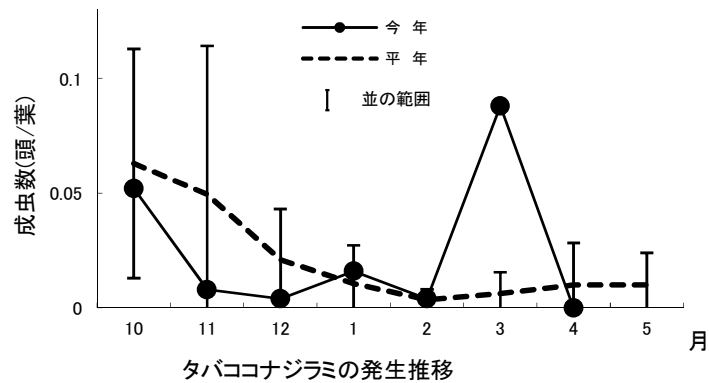


防除のポイント

- ・本種は新葉や果実を吸汁により加害する。新葉は縮れ、果実にはコルク化した線状の傷が付く。また、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
4月の発生量(現況)	(発生なし)並		
5月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、4月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

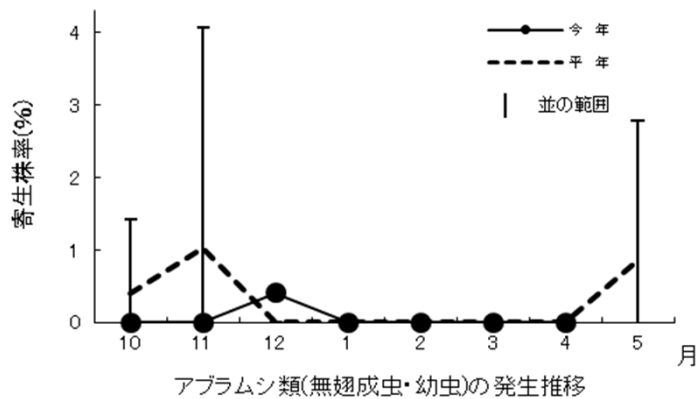


防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・早期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類		
4月の発生量（現況）	並		
5月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生株率の平年の発生推移から、4月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 一部施設で多発した。

防除のポイント

- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。